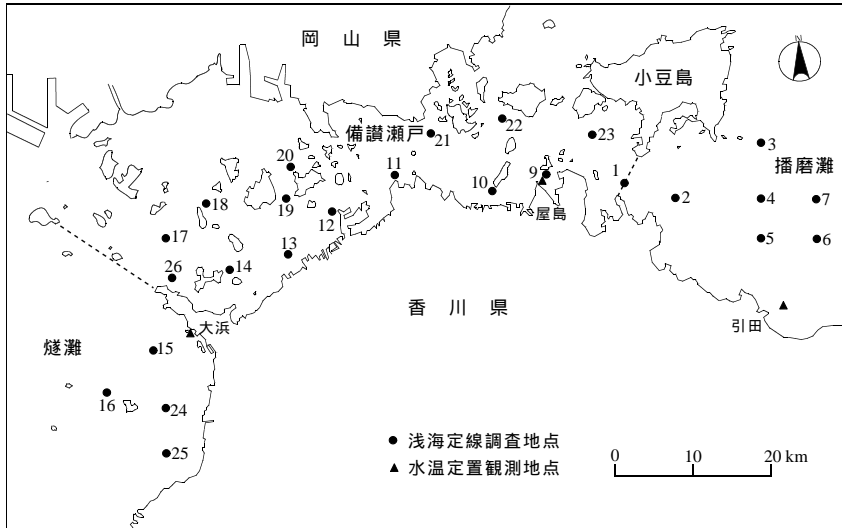


香川県漁海況速報 平成18年 9月 (H18-6号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成18年9月1日 (播磨灘) 4日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「平年並みからやや高め」、塩分は「やや低めから平年並み」、透明度は「やや低め」、溶存酸素は「やや低めからやや高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	26.8	26.9	25.4	30.8	31.0	31.2	6.7	4.11	3.76
	平年値	26.7	26.1	25.1	31.7	31.7	31.9	7.9	4.44	2.99
	平年偏差	0.1	0.7	0.3	-0.8	-0.7	-0.7	-1.2	-0.33	0.77
	状況	平年並み	やや高め	平年並み	やや低め	やや低め	やや低め	やや低め	やや低め	やや高め
備讃瀬戸	14地点平均値	27.3	26.9	26.5	31.0	31.0	31.1	3.1	4.06	3.65
	平年値	26.8	26.5	26.4	31.6	31.7	31.7	4.3	4.23	4.00
	平年偏差	0.6	0.4	0.1	-0.7	-0.7	-0.7	-1.2	-0.17	-0.35
	状況	やや高め	平年並み	平年並み	やや低め	やや低め	やや低め	やや低め	平年並み	やや低め
燧灘	4地点平均値	28.1	26.3	24.7	31.1	31.5	31.6	8.3	4.56	3.03
	平年値	27.6	26.2	24.7	31.7	32.0	32.2	10.3	4.54	2.69
	平年偏差	0.5	0.2	0.0	-0.6	-0.5	-0.5	-2.0	0.02	0.34
	状況	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み

平年偏差 = 平均値 - 平年値

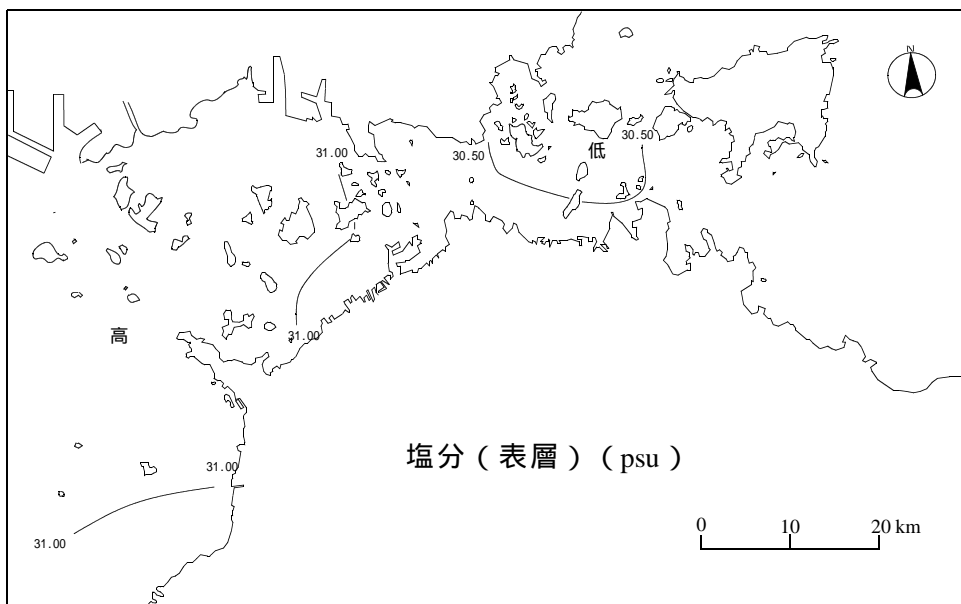
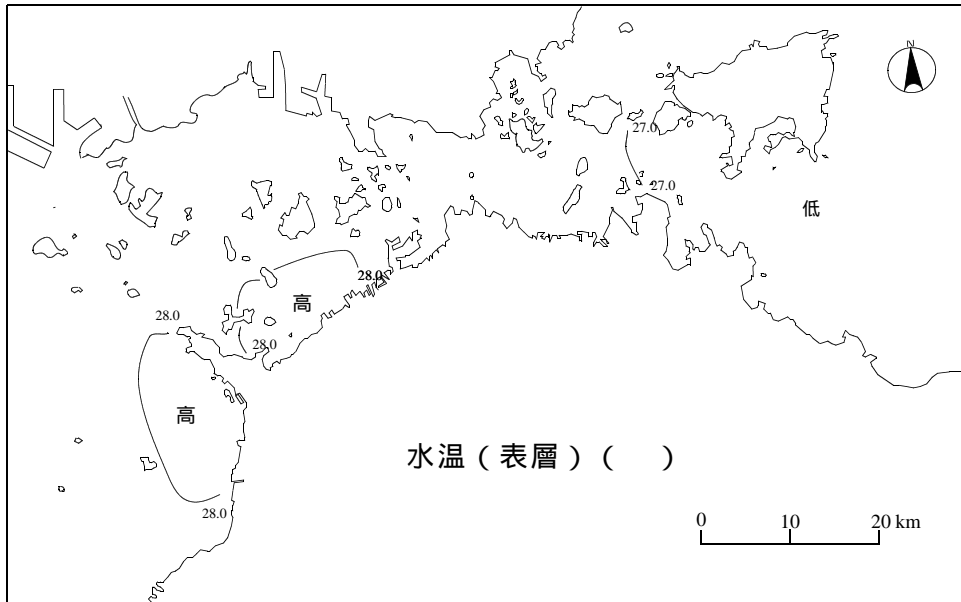
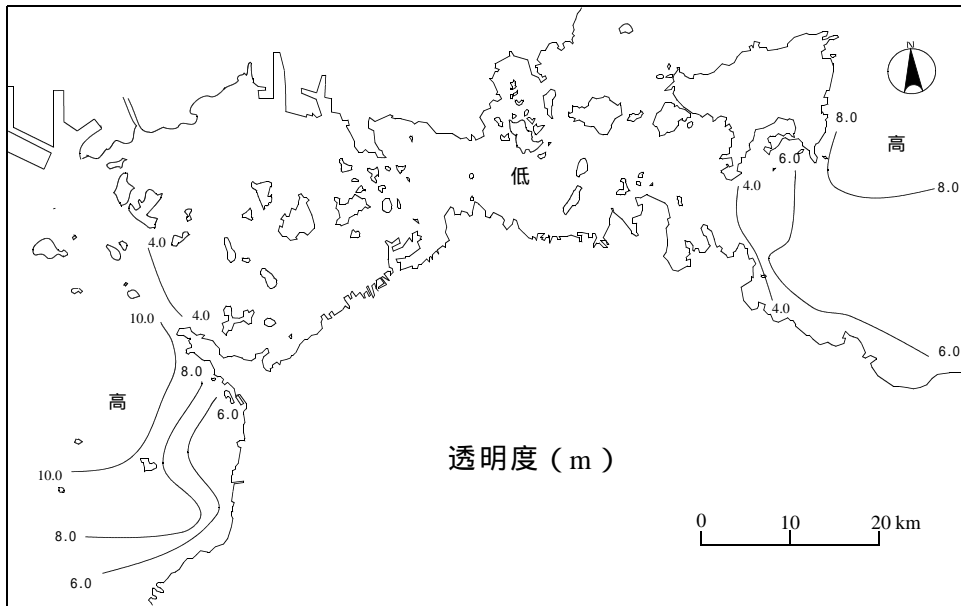
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



3) 定量観測(水温)

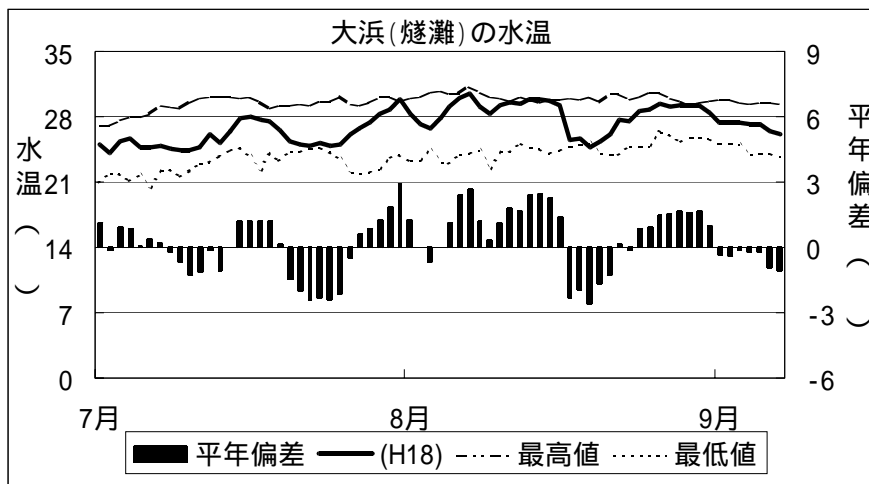
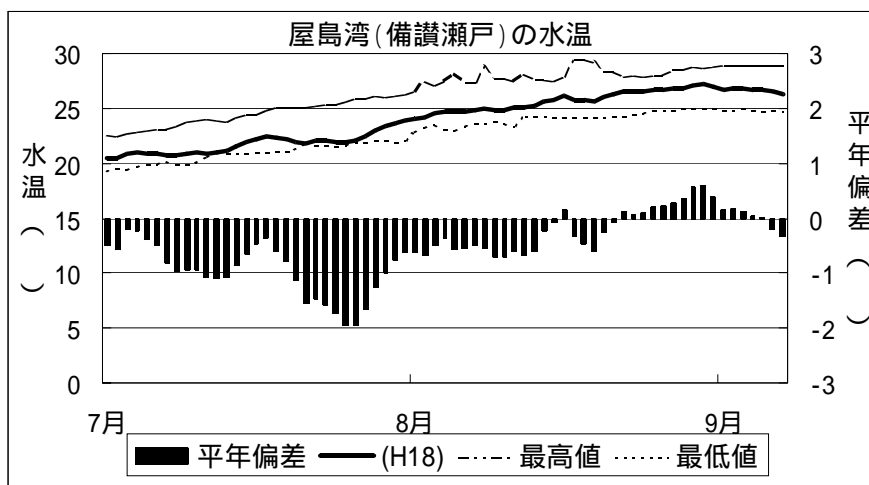
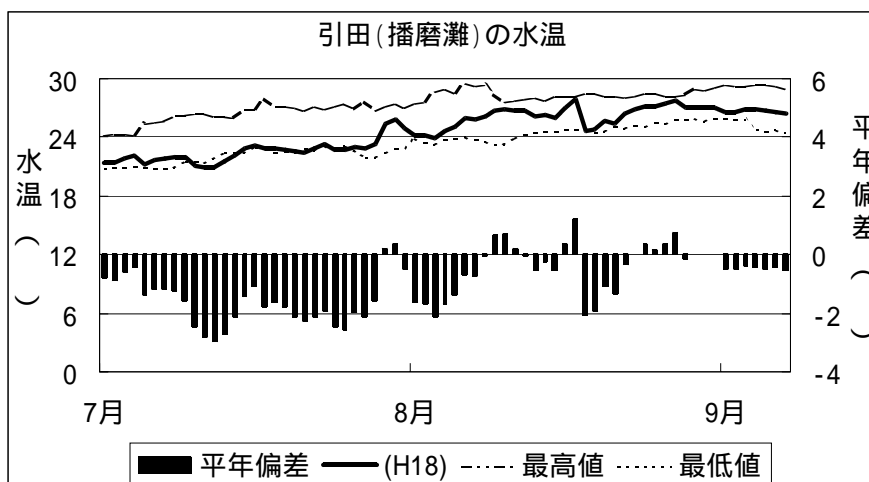
播磨灘(引田): 8月上、中旬は平年値を下回る日が多く、下旬は平年並みまたは平年値を上回る日が多かった。9月に入ると平年値を0.5程度下回る日が続いている。

備讃瀬戸(屋島): 8月上、中旬は平年値を下回る日が多かったが、8月末の0.6を最高に8月下旬から9月上旬にかけて平年値を上回る日が続いた。

燧灘(大浜): 8月は、中旬の5日間を除き、平年値を1.0以上上回る日が多かったが、9月に入ると平年値を下回る日が続いている。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成17(2005)年

屋島: 昭和50(1975)~平成17(2005)年



4) 赤潮

播磨灘：発生なし。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

なお、9月5日、香川県魚類養殖業赤潮対策本部は本部会を開催し、今夏の有害赤潮は終息したと判断し、県下関係漁業協同組合に通知した。

5) 卵稚仔

調査日：平成18年9月1日（播磨灘）、4日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	59.25	5.50	0.00	0.00	0.00	0.00	5.38	28.38
備讃瀬戸平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.00	3.33
燧灘平均	4.43	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.29	3.14
総平均	16.83	1.47	0.00	0.00	0.00	0.00	5.97	9.97

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	337.2%	495.5%	-	-
備讃瀬戸平均	0.0%	0.0%	-	-
燧灘平均	30.5%	0.0%	-	-
総平均	173.9%	108.9%	-	-

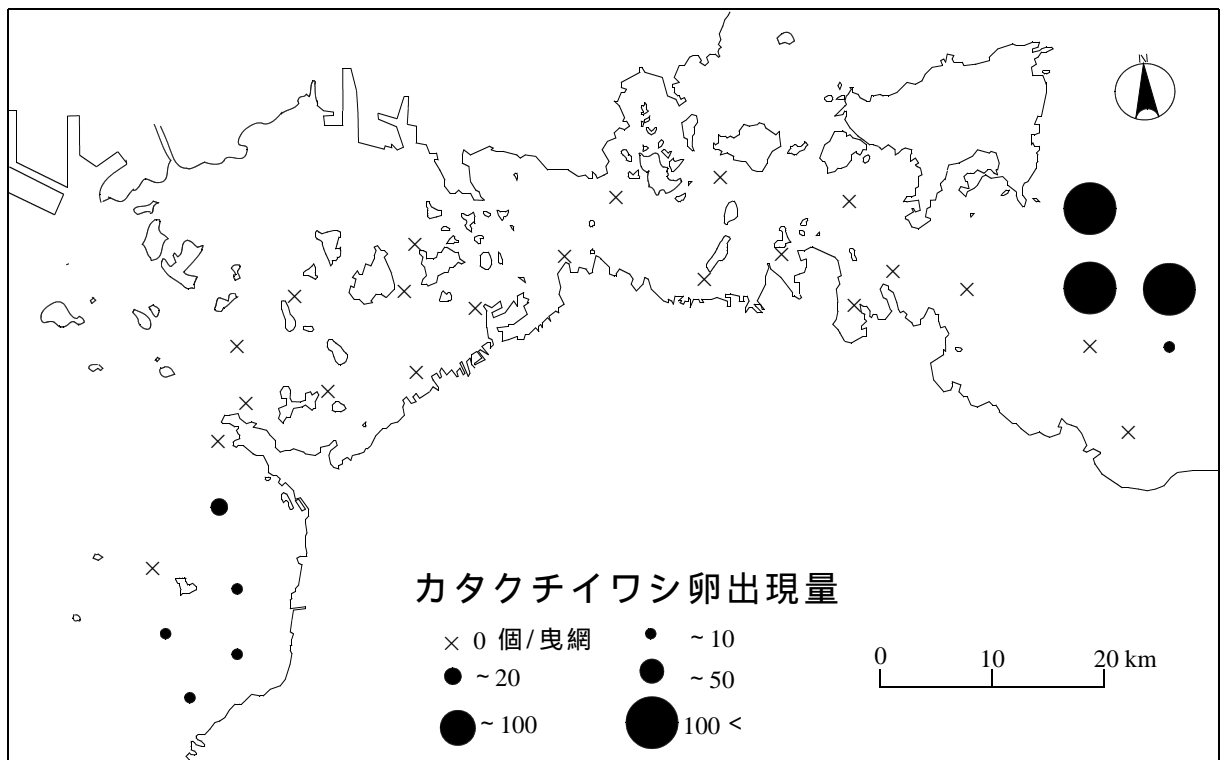
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成17（2005）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成17（2005）年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

8月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	底びき網では、主にミズカマス、マアジ、ハモ、コウイカ類、小エビ類が漁獲されている。桁網ではマアジ、ウルメイワシ、コノシロ等が漁獲されている。大型定置網では、タチウオを中心にマルアジ、ツバス等が漁獲されている。シラスの船曳網は盆明けにカエリ主体の漁獲があったが、長続きせず9月に入って休漁状態である。
備 讃 瀬 戸	底びき網では、主にウシノシタ類、メイタガレイ、マダイ、ハモ、小エビ類、クルマエビ、ガザミが漁獲されているが、マダコは少ない。クルマエビは9月に入って大きさは小さいが、漁獲量は増えてきている。マナガツオの流し刺網、込網は不漁なまま9月中旬でほぼ漁期が終了した。
燧 灘	底びき網では、主に小エビ類、メイタガレイ、タチウオ、クルマエビ、テンジクダイ、ガザミ、コウイカ類が漁獲されている。クルマエビは平年より多く漁獲されている。イワシ機船船曳網の8月までの漁獲量は約1,450トで前年の約70%であった。9月にはいって中羽主体の漁獲である。